

「大東文化大学看護学ジャーナル」発刊にあたり

大東文化大学スポーツ・健康科学部 学部長

勝又 宏

2018年4月より本学スポーツ・健康科学部に看護学科が創設されるとともに、学科における教育研究の充実・発展のために看護学会がスタートしました。その学会活動の一環として、この度「大東文化大学看護学ジャーナル」が創刊されますことを心より喜ばしく思います。

1923年に設立された本学は「東西文化を融合して新しい文化の創造をめざす」という建学の精神と、「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」という理念に対する不断の取り組みにより、文系の学問領域を特徴とした大学として発展してきました。その経緯において、大きく変化しつつある社会と時代の要請に応えながら文化をより多面的にとらえるという点から、2005年に「スポーツ科学科」と「健康科学科」の2つの学科から構成されるスポーツ・健康科学部が創設されました。そして本年度より、健康・医療分野におけるさらなる人材育成を目指し「看護学科」が設立されました。本年度、創立95周年を迎える本学の発展の歴史に刻まれる新たなスタートといえます。

スポーツ・健康科学部は、スポーツ科学科、健康科学科、そして看護学科の3学科体制となったことを契機に、設立以来活動してきた学部単位での学会(スポーツ・健康科学会)を学科単位での学会組織として編成することとしました。そのねらいは、各学科の特色ならびに学術的専門性を学会活動に反映させながら学科の実態に即した活動を展開させることにあります。この度の看護学会の発足もその流れを踏まえてのものとなります。しかし、このことは、3つの学科が単に独立的に独自の領域の中で教育研究を展開することに終始するのではなく、“健康・スポーツ”をキーワードとする社会的・文化的活動をより広い視野でとらえるとともに、“それらが人々に豊かな文化的生活を享受するうえで大切なものである”という共通理解のもとに、各学科はそれぞれ独自性を活か

した教育研究活動を充実させながらも、互いに共有し得る研究・教育のテーマについてコラボレーションすることによりそれぞれ学科の長所によって共に進化する事が可能となるということです。

以上の点において、看護学会が学科における教育の枠組みから一歩踏み出して学生を巻き込みながら看護学に取り組む場となるとともに、大東文化大学看護学ジャーナルがそのような研究・教育の成果発表の機会として充実したものとなりますことを期待してやみません。